



二子玉川

学校だより 第10号
令和8年1月30日
世田谷区立二子玉川小学校
校長 今福 眞和

子どもの声を聴く時間を大切に

副校長 家本 咲子

「失礼します。〇年〇組の〇〇です。副校長先生と遊びに来ました。」

中休みになると、2人の子どもが職員室にいる私を誘ってくれるようになったのは10月半ばごろです。教室を回っている時に、折り紙で上手に手裏剣を作っている2人に声を掛けたのがきっかけでした。折り方を知らなかった私に、2人が「じゃあ僕たちが教えてあげるよ」と提案してくれたのです。それからというもの、ほとんど毎日のように一緒に折り紙を折りながらいろんな話をしています。クラスのこと、放課後のこと、嬉しかったこと、困っていること。話すとスッキリした顔をしています。今では、人数も増え少し賑やかになりました。作った手裏剣は自分たちのものにではなく、子どもたちの提案で、つなげてガーランドという飾りにして全クラスにプレゼントしました。

副校長になってあきらめていたのが、子どもたちと遊ぶこと、でした。副校長の仕事は想像以上に楽しく充実した日々には違いないのですが、直接子どもたちと触れ合う機会は格段に減ったというのが着任当初感じた寂しさでした。それでも、自分なりに子どもたちに声を掛け、子どもたちの言葉に耳を傾けることを続けたところ、自分のクラスや学年をもっていた頃よりたくさん子どもたちと触れ合う日常を得ることができました。

大人の役割の中でも「未来をより良くするために子どもたちをきちんと育てる」ということはとても大切なことだと私は考えています。数年前、自暴自棄でなかなか心を開かない1人の子どもが「お父さんもお母さんも僕を見るより、携帯を見てる時間の方が長いんだよ」と話してくれたことがあります。なかなか衝撃的な言葉でした。大人としてもものすごく反省した言葉でもありました。私自身の行動も振り返るきっかけにもなりました。子どもたちが1日の大半を過ごす学校の中で、私たち教職員にできることは、とにかく子どもたちの声に耳を傾け、話を聴いてあげることです。話を聴いてくれる人の話しか子どもたちは聴きません。子どもたちに自分の思いを届けたいなら、まず、子どもたちの話を最後まで聴くことが先です。まさに「聴くが効く」です。

現在、校長室では6年生との会食を行なっています。各クラスから2人ずつ8人の子どもたちが給食を持ってやって来ます。「楽しかった、また来たい」と言って子どもたちは教室に戻るのですが、子どもたちより楽しんでいるのは間違いなくこちらの方です。子どもたちの話を聴く時間は、いつも新しい価値観をもつことができるチャンスの時間だと思っています。それに、子どもたちの本音を聴くことのできる貴重な時間でもあります。だから、職員室に子どもが来てくれたら、1回手を止めて、その時話してくれる言葉に耳を傾ける日常を積み重ねていこうと決めているのです。

今年度も残すところ2か月となりました。次の学年に向けて、子どもたちがそれぞれの力を発揮できるよう、そして毎日楽しく過ごせるようサポートしていきます。2月は学校公開や展覧会も控えています。保護者の皆様、地域の皆様もぜひ足をお運びいただき、子どもたちの頑張っている姿に励ましの声掛けをお願いいたします。



6年生との会食です。いろんな話をしながら楽しく食べています。



中休みに作成している手裏剣です。

にこプロ主催の餅つき会で出来上がった鏡餅です。立派です。

